

巻頭言

関西社会福祉学会会長
岡本民夫(同志社大学)

このところ社会福祉関連の法制度は介護保険法の改正、新法としての障害者自立支援法や高齢者虐待防止法の成立などによって目まぐるしく変化しつつあり、一部の人々から「ついていけない」という悲鳴を聞くことがしばしばである。しかし、学問としてあるいは科学としての社会福祉学は、こうした「嘆き節」を聞いている暇はない。それどころか近未来を見据えた安定性のある展望を切り拓き、政策提言をしていくことが緊急の課題である。

これまで社会福祉学会はともすると、行政官僚作成の法制度や施策をあとから批判的に考察したり、研究したりするという姿勢が特色であったように思われる。毎年開催される全国学会の主要テーマを見てみると新しく登場する施策や理念の追従や批判が中心であり、それらを凌駕するような新たな視点や研究方法が政策提言も含めてほとんど見当たらない。

こうした状況は緊急課題に待ったなしで対応しなければならぬ社会福祉学の宿命であるといわざるを得ないところがあり、また一定の有効性を発揮したことは評価しなければならない。しかしながら、このままで学会活動が推移するようでは、学問の停滞とか不毛状況とまでは言わないまでも、学問としての未来が展望できなくなる。

近年、生活問題(福祉問題)に関する隣接諸科学の関心の高まりと積極的なアプローチが目立ち始めている。これらの動きは社会福祉学の発展にとっても貴重な刺激となるとともに生活者の問題究明にとっても大いに裨益するところである。しかし、社会福祉学にも学問の自由は保障されているとはいえ、周辺隣接諸科学から法則や所見のみでなく、研究方法論まで借用する傾向がある現実を直視し、社会福祉学の本体が何であるか、その存在意義を問い直してみる必要がある。その意味で社会福祉学は応用科学であると断言すればそれまでであるが、あまりにもばらばらで系統立てた研究成果を継承・持続し、蓄積できるような研究方法論が議論されないまま経過してきた嫌いがある。これは学問の画一化や統一化を意図するものではなく、あくまでも学問としてのミニマムエッセンシャルに関する合

意形成をしていく必要性を主張しているのである。つまり社会福祉問題の拡大化、重篤化、複合化が進行するなかで、社会福祉学は隣接諸領域と有機的に協力、連携、協働していかなければならない状況にある。この事態に社会福祉学が対処していくためには、「内なる世界に同一性、共通性、等質性」を確保し、「外なる世界に向けては、協力、連携、協働」をしていかななくてはならない情勢にある。こうした情勢を踏まえて、独自固有の視点と方式と手法つまり固有の研究方法論をもって、今度は隣接分野や領域に向けて、学問的にも実践的にも「寄与」し、「貢献」していかななくてはならない。そのためにはこれまでの諸科学への依存体質からいかに脱却し、新たな学問としてのフロンティアを切り拓き、創造していくことが、焦眉の急を告げる課題であると考えらる。

2005年度 関西社会福祉学会年次大会・
日本社会福祉学会関西西部会総会のご案内

来る2006年3月5日(日)に、京都府立大学において、2005年度の「関西社会福祉学会」の年次大会、及び「日本社会福祉学会」関西西部会の総会が開催されます。

今回の大会では、本年6月に刊行されました池田敬正著『福祉原論を考える』(高菅書店、2005年)をもとにして、「福祉とは何か」について考えたいと思います。池田会員による基調講演をうけて、龍谷大学の大友信勝会員からコメントをいただき、会場との活発なやりとりを予定しています。

会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。
(担当校代表:上掛利博)

日時: 3月5日(日) 午前9時30分~受付
場所: 京都府立大学「合同講義棟」(正門右手) 3階
京都市左京区下鴨半木町1
(地下鉄「北山駅」下車、①出口、南へ徒歩6分)

内容: ・10時~12時 理事会(2階、第2講義室)
・10時~12時30分 自由論題報告会
(3階、第4・5・7講義室)
<昼食>
・13時20分~14時20分 総会
(3階、第3講義室)
・14時30分~17時30分(3階、第3講義室)
テーマ『福祉とは何か』
基調講演: 「社会福祉は現代に成立する」
池田敬正(四天王寺国際仏教大学)

コメンテーター 大友信勝 (龍谷大学)
座長 上掛利博 (京都府立大学)
<全体討議>

・17時40分～ 懇親会 (地下・生協食堂)

※なお、当日は日曜ですので、お昼は、京都府大生協特製のヘルシーな「お弁当」(教員の間で好評です)を準備します(お茶付き、700円)。ご入用の方は、下記まで、メールまたは「はがき」でご予約下さい。

あわせて、「懇親会」への参加希望もお知らせいただけると幸いです。

懇親会のご案内

年次大会の終了後ただちに、同じ建物の地下にある大学生協の食堂を利用して、懇親会を開催します(会費は3,000～4,000円を予定、院生は割引あり。詳細は当日お知らせします)。

会員相互の研究交流や情報交換の場として、有益な時間にしたいと思っておりますので、ふるってご参加下さいますようお願いいたします。

なお、日曜日に生協食堂をあけてもらう関係もあって、一定数の参加者の確保が必要になります。あらかじめ「懇親会」への参加希望を、下記住所までメールまたは「はがき」で、お知らせいただくと幸いです。
(上掛利博)

<お弁当+懇親会の連絡先>

E-mail:kamikake@kpu.ac.jp

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1
京都府立大学 福祉社会学部
上掛研究室 宛

自由研究報告発表募集

1. 申し込みの締め切りについて

自由研究報告を希望する方は、1月13日(金)までに下記の桃山学院大学松端克文まで、E-mailにてご連絡ください(メールを受信した後、確認のため返信のメールを送信します)。

2. 報告要旨・資料について

2月19日(日)までに、松端宛に郵送もしくはE-mailにて送信するか(メールを受信した後、確認のため返

信のメールを送信します)、当日各自で50部持参してください。

3. 宛先

郵送の場合 〒594-1198 和泉市まなび野1-1
桃山学院大学 社会学部 松端克文

Tel 0725-54-3131 (代)

E-mailの場合 katufumi@andrew.ac.jp

(松端克文)

第1回社会福祉政策・理論フォーラムのご案内

日本社会福祉学会主催で「政策・理論フォーラム」が同志社大学で開催されます。

前週3月5日の関西社会福祉学会年次大会と二週続けての大きな催しになりますが、大切な企画の第一弾を関西地域でさせていただくことになりました。

非会員の参加も可となっておりますので、皆さんお誘い合わせの上ご参加のほどお願いします。

詳細は本ニュースレターの最終面に載せていますので是非ご覧下さい。また、担当理事の大友先生から、フォーラム開催の主旨に関する文章を頂きましたので以下に掲載させていただきます。

(上野谷加代子)

日本社会福祉学会「政策・理論フォーラム」

—いま、なぜ政策・理論フォーラムなのか

企画委員会担当理事 大友信勝

日本社会福祉学会は、なぜ、いま、社会福祉理論研究の側面から多様な議論の場を当事者、職能団体、行政関係者、研究者等に提供し、今後の方向性を研究することを目的に「政策・理論フォーラム」を企画・実施するのか。本学会は今日の福祉政策動向について財政主導による新たな政策のパラダイム転換が進行していると認識している。財政主導の政策動向の具体的な問題を一つの切り口にしながら福祉政策の20年を問い直し、新しい政策形成の視点と方法を中央政府と地方政府の関係において、また自治・分権を地方の視点を取り入れ、さらに福祉社会を蝕む社会的キーワードとして隠蔽されてきた貧困と排除の問題を組み込み、今日的な政策理論の構築につながる「政策・理論フォーラム」を企画した。

第六回若手研究者・院生情報交換会予告

報告:「ソーシャルワーク実践と研究の展開をめぐって
～ジェネラリスト・ソーシャルワークを中心として～」

発題者: 龍谷大学 山辺朗子

日時: 2006年1月15日(日) 午後2時～5時

会場: 龍谷大学大宮学舎 南翼(なんこう)
1階 104教室(103教室;控え室)

参加費: 無料

連絡先: 520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学 社会学部 山辺朗子

参加申し込み: 事前申し込み無しの当日参加も結構ですが、人数の把握の都合上できれば、事前にメールかファックスで申し込んでください。

メールアドレス yamabe@soc.ryukoku.ac.jp

ファックス 077-544-7229

第6回関西社会福祉学会若手研究者・院生情報交換会参加申し込みと明記してください。

お名前、連絡先(電話番号もしくはメールアドレス)
所属、懇親会の参加の有無を明記してください。

懇親会: 京都駅近辺で検討中

内容:「フィールドでの実践や活動(経験)とソーシャルワークの研究をどう結びつけていくか?」といった事を中心に若い人たちの研究に寄与できるような話し合いを持ちたいと思っています。

(山辺朗子)

第四回若手研究者・院生情報交換会のこと

2005年6月11日(土)、佛教大学において鈴木勉先生より「人間発達に適合的な福祉供給主体像の探究—日本とイタリアの福祉事業実践を通して」というテーマで講演が行われました。鈴木先生は、日本の福祉政策や福祉事業運動との比較からイタリアの福祉に興味を持ち、社会的協同組合についての研究をされています。今回は、社会的協同組合(イタリア)の現地調査や障害者の共同作業所(広島県)の運営など、

これまでの鈴木先生の研究と実践に基づいた話をしてくださり、それに対して上掛先生(京都府立大)がコメントされるという形で進められました。

講演後は、佛大近くの京都の風情のある民家をお店にしたところで、鈴木先生を囲み和やかに懇親会が開かれました。今回は遠方(福井)からも院生が参加し、情報交換の和に一段と花が咲きました。この情報交換会の良さは、①諸先生方の研究を知ることができ、②他大学の院生の研究内容を知ることができ、③他大学との交流が深まり、④懇親会に参加すれば、諸先生方からいろいろアドバイスを頂けることです。

これからも、この会が院生と教員そして大学とを結ぶ“hand in hand”の会として福祉の輪が広がり、さらに交流が深まることを願っています。

(京都ノートルダム女子大学大学院 M2 花岡三賀)

第五回若手研究者・院生情報交換会のこと

8月27日(土)、大阪市立大学文化交流センターにて「次世代育成支援施策をめぐる国の動向と社会福祉研究」(講師:山縣文治先生)をテーマに第5回情報交換会が開催され、45名の参加がありました。

まず、山縣先生よりご自身の福祉観、国の動向と課題が述べられ、その後、桃山学院大学の松端克文先生をコメンテーターにして、福祉研究の視点について論議がありました。特に後半は、会場の若手研究者の先生方と直に意見のやり取りをするという方法が採られたので、それぞれの先生方の研究的立場・あり方の相違がより鮮明になりました。

行政よりか市民よりか、アカデミックな立場をとるか現場かという二元論でなく、研究者としての立脚点や研究方法の多様性がライブで伝えられ、会場内で座標軸が広がってゆくような不思議な体験でした。また私自身も、自分がこの座標軸の中のどの地点に根をおろし、どういうベクトルで研究を進めようとしているのかを改めて考えさせられています。

情報交換会後の懇親会は1次会(参加25名)、2次会(同9名)と続き、大学教育の現状や、教授法等について等を話しつつ「あつい」夜が更けてゆきました。

(佛教大学大学院 D3 江本純子)

日本社会福祉学会主催

「第1回政策・理論フォーラム」

プログラム

□日 時：2006年3月11日（土）10:00～17:00
（受付9:30～）

□会 場：同志社大学新町キャンパス
臨光館3階 301教室
（京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601）

□構 成：

10:00～10:05

開催校挨拶 同志社大学黒木保博社会学部長

10:05～10:15

開催にあたって（主催者挨拶／趣旨説明）

「いま、なぜ 政策理論研究なのか」

日本社会福祉学会会長 高橋 重宏

10:15～10:25

シンポジウム趣旨説明 大友信勝

（日本社会福祉学会研究担当理事・龍谷大学）

10:30～12:30

第Ⅰ部 テーマ：「福祉政策の20年を問う」

対象別の社会福祉分野から、これまでの社会福祉政策による成果と課題について問題提起を行う。（社会福祉政策課題を横軸でとらえる）

【高齢者福祉分野】 白澤 政和（大阪市立大学）

【障害者福祉分野】 佐藤 久夫（日本社会事業大学）

【子ども・家庭分野】 山縣 文治（大阪市立大学）

【貧困・低所得分野】 杉村 宏（法政大学）

12:30～13:30 休憩

（45分程度に短縮する場合有り）

13:30～15:00

第Ⅱ部 テーマ：「政策論の課題と展望」

「地方分権」「制度改革」「社会的排除」をキーワードに、福祉政策の課題について提起する。（社会福祉政策課題を縦軸でとらえる）

【地方分権】 牧里 每治（関西学院大学）

【制度改革】 小林 良二（首都大学東京）

【社会的排除】 都留 民子（県立広島大学）

15:00～15:15 休憩

15:15～16:30

第Ⅲ部 討論 I部、II部の報告者が登壇

し、報告者間、フロアとの討論を行う。

*質問票をもとに2人のコーディネーターによって進める。

*I・II部の報告者全員が登壇する。

16:30～17:00

総括 日本社会福祉学会会長 高橋 重宏
全体コーディネーター：

大友 信勝（前掲）／ 岩崎 晋也（法政大学）

B会員会費納入のお願い

既に過去のニュースレターでもお知らせしてまいすように、前年度から日本社会福祉学会の関西部会員の方は自動的に関西社会福祉学会のメンバーとなり、会費は日本社会福祉学会からの還元金を当てることとなりました。（A会員）

一方、日本社会福祉学会の会員ではないが関西社会福祉学会の会員である方は、今までどおり年会費を2000円とすることになりました。（B会員）

従って、B会員の方は本年度会費2000円を納入いただくようお願いいたします。B会員の方には振込用紙を同封しておりますのでよろしくお願ひいたします。

本ニュースレターを送付した封筒の宛名ラベル右下に「B」と印刷されている方がB会員です。万一、「B」と印刷されているものと印刷されていないものが2通届いている場合は、その方はA会員です。お手数ですが岡田（okadan@ohtani-w.ac.jp）まで、ご一報下さい。（岡田直人）

機関紙担当から

2005年度ニュースレター第2号を出すこととなりました。

恒例の若手研究者院生情報交換会のご案内、報告や次回年次大会のご案内に加えて、日本社会福祉学会の「政策・理論フォーラム」のご案内もさせていただくことが出来ました。皆さんのご参加をお待ちしています。

関西社会福祉学会ニュースレター

発行日 2005年12月9日

発行者 会長 岡本民夫

関西社会福祉学会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学生活科学部社会福祉学研究室気付

電話 06-6605-2895 FaX 06-6605-2894